

第3回 有明海沿岸道路 筑後川・早津江川橋梁設計検討委員会 会議録概要版

日 時：平成24年2月3日 14:00～16:00

場 所：福岡市博多区 福岡第二合同庁舎 10階 会議室

学識者：日野委員長、荒牧委員、島谷委員、柴委員（欠席）、安福委員（欠席）、山口委員、小路委員、野口委員

事務局：福岡国道事務所、佐賀国道事務所

決定事項

- ① 両分科会で整理された評価項目について確認した。
- ② 検討項目についてより精度を高めるよう努めること。

議事要旨（指摘事項①～③）

- ① オープンハウスは、開催時期や場所などを広く地域の方に周知した方がよい。
- ② オープンハウスに行けない人のために、パネル内容を HP 上に掲載した方がよい。
- ③ オープンハウスには、導流堤上への橋脚設置の必要性を示した資料を用意した方がよい。

両分科会審議結果の報告**【第2回景観分科会結果について】**

委員) 「横への広がり感」と「歴史遺産への配慮」は、どちらが重要であるか。

委員) 両項目の評価を総合的に判断している。

【第2回地盤・構造分科会結果について】

委員) 資料内に「架設費の全体工事費に占める割合が約 30%と大きい」と記載があるが、何を意味しているのか。

事務局) これまでの検討は、既往実績より設定した単価を用いて架設費を算出していた。地盤・構造分科会の中で、全体工事費に占める架設費の割合が大きいため、架設費の精度を高める必要があるという結果となった。

委員) 鋼床版箱桁橋は、他案より輸送回数が多くなるのか。

事務局) 鋼床版箱桁橋は桁高が高いため、他案よりブロック数が多くなる。

委員) 早津江川橋梁において橋上構造物を省略した案は桁高が高くなるが、桁高が不連続になることはないか。

事務局) 桁高は擦り付けるため、不連続にはならない。

委員) 板厚を厚くすることにより、桁高を一定にできないか。

事務局) ここでは、合理的な断面構成にした場合の桁高を示している。

委員) 施工中の地盤沈下に対して対応可能とのことだが、想定した沈下量はいくらか。

事務局) 10cm を考えている。

委員) 矢部川大橋の沈下量は 23cm だが、10cm で良いのか。

事務局) 検討においては 10cm を設定した。

委員) 沈下量 10cm と沈下量 20cm で、対応方法が変わるのか。
事務局) いずれの場合も、ケーブル張力調整・ジャッキアップで対応可能と考える。

評価・検討での留意すべき事項

委員) 部材の接合方法はボルト接合か。景観性に配慮した場合、現場溶接も考えられる。
事務局) 積算上はボルト接合を想定しているが、今後の検討課題と考えている。
委員) 各橋種における定期点検費の差はどれ位か。
事務局) 定期点検費に大差はない。
委員) 耐風対策を行った場合、どれ位のコスト増になるのか。
事務局) 同路線内の大牟田連続高架橋ではフラップを用いた耐風対策を行っており、本橋において同様の対策を行った場合、約 1 億円の対策費が予想される。
委員) 各分科会の審議結果、評価・検討での留意すべき事項をみると、景観面・構造面ともに鋼アーチ橋が優位であるという印象がある。評価・検討での留意すべき事項の取扱いはどうするのか。
事務局) 今回、両分科会で議論頂いた評価項目に加え、事務局にて評価・検討での留意すべき事項を考えた。この内容について議論頂き、特に問題ないようであれば総合評価の項目として追加したい。
委員) ケーブルエレクション架設は、張出し架設と比べリスクが高いと考えるが、施工実績が多くあり、きちんと施工すれば問題ないと判断する。
事務局) 事務局としても同じ認識である。但し、次回委員会には、架設費・施工期間をもう少し詰めたものを提示したい。

その他

【これまでの検討経緯を地域の方々に理解して頂くための情報提供】

委員) 地域の方への広報はどうしたのか。
事務局) 記者発表を行っている。また、新聞記事に掲載されれば更に広く広報できる。
委員) ②オープンハウスに行けない人のために、パネル内容を HP 上に記載した方が良い。
事務局) 本日、HP 上に記載する。
委員) ①多くの人が参加できるよう、漁協関係者や NPO 等に周知した方が良い。
事務局) 案内するよう考えている。
委員) オープンハウスは意見収集が目的か。
事務局) 事業計画の広報が目的である。
委員) ①大川市や佐賀市の HP にリンクしてもらうのが良い。
委員) 職員の配置は意見収集が目的か。
事務局) 短期間のオープンハウスであり、職員が説明することで、より正確に情報が伝わると考えている。その中で要望等があった場合は、記録をとるよう考えている。
委員) ③導流堤上への橋脚設置の必要性を示した資料を用意した方が良い。
事務局) 中間報告等を用意している。

【第4回 設計検討委員会について】

委員) 次回委員会については、分科会のメンバーも参加頂くようにしたい。

事務局) 分科会メンバーの参加については今後調整する。